

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

社会貢献

私たちの社会は、地球温暖化やエネルギー問題、人口爆発、貧困などさまざまな課題に直面しています。2015年9月、国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳に参加のもと、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。アジェンダは、人間、地球および繁栄のための行動計画として持続可能な開発目標（SDGs）を掲げています。持続可能な社会をつくるために地球規模での連携が必要とされる中で、これらの課題に取り組むために必要な解決策や技術を開発し適用することが企業に求められています。

日産は、自動車メーカーとして魅力ある製品やサービスを世界中の人々に提供することに加えて、その中核的能力を生かしながらコミュニティの一員として主体的に社会にかかわり貢献することも、企業の重要な使命だと考えます。

企業がさまざまな資源を地域社会に提供し、コミュニティの活性化や課題の解決に積極的に参画することは、企業市民としての責務を果たすというだけでなく、企業活動にとっても有益であり、より良い事業環境や持続的に成長する市場を生み出すことにつながります。

日産は、複雑化する社会課題に対応するため、非営利組織（NGO・NPO）や行政などさまざまなステークホルダーと連携し、相互の強みを生かしながら活動を展開しています。こうした社会貢献活動の方針をグローバルに共有するとともに、国や地域により異なるニーズに対応するため、各国の事業拠点や関連会社による独自の取り組みも行っています。

取り組みの柱

3つの重点分野

グローバル社会貢献支出額
 〈2016年度／寄付金・社会貢献を目的とした協賛金・社会貢献活動費用を含む〉

16億円

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

社会貢献

CSRスコアカード

2016年度目標に対する達成度 ✓✓:達成 ✓:ほぼ達成 ×:未達成

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして「CSRスコアカード」を作成して、「サステナビリティ戦略」ごとの活動の進捗状況を確認し、レビューを行っています。ここでは「CSRスコアカード」のうち、日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標についてご紹介します。

取り組みの柱	目標と長期ビジョン	進捗確認指標	2016年度実績	評価
環境への配慮	環境教育プログラムを実施し、将来世代の環境問題への理解を促進する。日本での実施規模を拡大するとともに、グローバルな活動として展開する	プログラムの継続的拡大、地域拡大	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施回数と地域の拡大(日本) ● 中国・英国・スペインで授業を実施 	✓✓
教育	教育を「次世代への投資」と位置づけ、子供や若者の支援を中心とした教育プログラムを実施する。実施にあたり自動車メーカーならではの強みやリソースを活用する		<ul style="list-style-type: none"> ● 中国と英国で独自の教育プログラムを実施 ● ブラジル・オーストラリアで社会貢献活動を推進する財団を設立し、活動を開始 	✓✓
人道支援	大規模自然災害発生時に、被災地に対し迅速で効果的な支援を行うため、社内体制やプロセスを改善する	現地のニーズを的確に把握しタイムリーに支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> ● 熊本地震支援として物資・金銭・人的支援を提供したほか、自動車会社らしい支援として電気自動車(EV)100台を無償貸与 ● チリで発生した森林火災の支援として車両2台を寄贈 	✓



目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

社会貢献への取り組み

日産は、社会貢献活動として「環境への配慮」「教育」そして「人道支援」の3分野に重点的に取り組むことを定め、金銭的な支援だけでなく、自動車メーカーとしての知識や専門技術、自社製品、関連施設の活用など、日産が事業を通じて培った資源を十分に生かし、独自性の高い活動を実施しています。

活動をより実効性の高いものにするため、活動分野において高い知見と専門性を持つ非営利組織(NGO・NPO)との対話と協働を重視しています。

また、多くの従業員が社会に関心を持ち、活動に自発的に参加できるように、従業員の社会貢献活動をサポートしています。

事業を営む地域への貢献



推進体制

日産の社会貢献活動方針は、日産グローバル本社(日本)のCSR部が策定します。グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティ等で議論・決定された方針はグローバルに共有され、各国・地域の活動もこの方針に沿って実行されます。

環境への配慮

日産は、環境理念「人とクルマと自然の共生」を掲げ、環境負荷削減に意欲的に取り組んでいます。社会貢献活動においても「環境」への取り組みが重要であると考え、地球環境問題への理解を深める教育プログラムの実施、環境保全団体との連携、低炭素社会の実現に向けた基礎研究の奨励といった活動に取り組んでいます。

日産の特色を生かした環境出張授業(日本、英国、中国)

日本では、自動車製造業ならではの知識や技術を生かした3種類の体験型教育プログラムを2007年から実施しています。いずれも小学校高学年の児童を対象に、日産従業員が講師となって学校を訪問し行います。

そのひとつである「日産わくわくエコスクール」[▶]は、地球環境問題への理解を深めるとともに、日産の環境への取り組みを紹介し、キットカーを用いた実験や、100%電気自動車「日産リーフ」の試乗などを通じて最新の環境技術を体験するプログラムです。受講した児童が環境問題を理解し、日々の生活における自身の行動を振り返ることを目指しています。

好評につき日本国内での実施回数を増やし、2016年度は神奈川県を中心に88校、イベントへの出展などを合わせると約1万名の児童が受講。開始以来、同プログラムの日本国内での受講者数は累計で約5万1,000名に上ります(2017年3月末現在)。社内認定制度で資格を得たさまざまな

▶ website

▶ 「日産わくわくエコスクール」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

部署の従業員が講師を務めたほか、2016年度は延べ361名の従業員がボランティアとして授業運営をサポートしました。

海外においては、英国日産自動車製造会社(NMUK)が地元小学校の児童を対象に環境に関する内容や活動を充実させたエコプログラムを実施し好評を博しており、2016年度は、553名の生徒が25の授業に参加しました。

また中国では、日産(中国)投資有限公司(NCIC)に加え、2016年から他の事業会社も授業を開始しました。インターネットを活用した講座もスタートし、2016年度は計10,000名以上が受講しました。

世界自然保護基金(WWF)との連携(日本、南アフリカ)

「環境」分野での取り組みの一環として、日産は国際的な環境保全団体であるWWFと協力関係を築いています。日本では2015年度よりWWFジャパンのパートナー団体である一般社団法人徳島地域エネルギーとNPO法人四国自然史科学研究センターに電気商用車「e-NV200」を各1台無償貸与。また、2017年3月には横浜市で開催されたWWFジャパン主催の環境啓発イベント「Earth Hour 2017」に協賛し、再生エネルギーで充電した「日産リーフ」2台を活用して、CO₂排出ゼロのイベント運営に協力しました。さらに、南アフリカ日産自動車会社(NSA)はWWF南アフリカが行う水源地の保全活動をサポートするため、SUV1台を寄贈しました。



横浜市で行われた「Earth Hour 2017」

教育

日産は、将来世代を担う子供や若者を支援することは「未来への投資」であると考えます。より良い未来へと続く扉に誰もがアクセスできる社会を実現するために、事業で培った知識や技術を活用した教育プログラムの実施や、新興国における初等教育の機会提供といった活動に取り組んでいます。

**「子供と本」を通じた取り組み
(日本、ポルトガル、米国、インドネシア)**

日本では、創作童話と絵本のコンテスト「日産 童話と絵本のグランプリ」[※]を1984年から実施しています。同グランプリでは、大賞を受賞した作品を出版し、全国の図書館や事業所近隣の幼稚園・保育園に届ける活動を継続。これまでに約22万冊以上の本を寄贈してきました(2017年3月末現在)。

また、米国では北米日産会社(NNA)が本社を置くテネシー州において、就学前の子供たちが本に親しむ環境を提供するプログラム「ガバナーズ・ブックス・フロム・バース基金」「ドリー・パートン・イマジネーション・ライブラリー」を10年以上にわたり支援しています。2016年にはテネシー州の4つの郡で、約4万4,500冊の本を贈呈。0歳から5歳の子供たちそれぞれの年齢に合った良質の本が届けられました。また、キャントン工場のあるミシシッピ州では、イマジネーション・ライブラリーを通じて毎年約3万5,000名の未就学児に本を提供しています。

インドネシアでは、2015年からダットサン・ブランドの社会貢献活動として「ダットサン・ライジング・ホープ」プログラムを開始。2016年度は年間で1万冊以上の本を収集しインドネシア国内の図書館に寄贈しました。

▶ website

▶ 「日産 童話と絵本のグランプリ」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制



「ダットサン・ライジング・ホープ」の取り組み

**モノづくりの魅力を伝える取り組み
(日本、中国、英国など)**

日産は、モノづくりの楽しさや奥深さを将来世代に伝えたいと考え、さまざまな取り組みを行っています。日本では日産従業員が小学校を訪れ、モノづくりの魅力を伝える出張授業「日産モノづくりキャラバン」や「日産デザインわくわくスタジオ」* を実施、両プログラム合わせて年間約2万1,000名の子供たちが受講しています。中国では日産(中国)投資有限公司(NCIC)をはじめとする事業会社が授業を実施。英国でも「日産モノづくりキャラバン」が実施されており、サンダーランド工場で学期中に週5日行われる授業には、年間4,500名以上の小学生が参加しています。クランフィールドにある日産テクニカルセンターでは、2016年度に実施された12回の授業に300名が参加しました。

また英国では、2014年に日産スキルズ・ファンデーションを設立し、2017年3月までに地域の2万名以上の生徒にさまざまなプログラムを提供。未来のエンジニアと製造を担う人材の育成を推進しています。例えば、F1ミニチュアカーの製作を通じて科学・技術・工学・数学(STEM)を学ぶ教育プログラム「F1 in Schools」では、機材や資金、知識などを提供して地元チームをサポート。2016年の世界大会決勝では、国内大会を勝ち抜いた5チームを支援しました。また英国で高い評価を受けている教育

プログラム「Industrial Cadets」では、13歳から14歳の生徒に製造やエンジニアリングのプロフェッショナルと交流する機会を提供。400名以上が参加し、同ファンデーションの中心的な取り組みとなっています。さらに女性のキャリア開発に焦点を当てたプログラム「GIMME (Girls in Monozukuri, Manufacturing and Engineering)」および「GIMME Booster」を通じて、ダイバーシティの浸透にも取り組んでいます。このプログラムでは、女子生徒にキャリアの選択肢を示し、製造やエンジニアリング関連への就職を支援しています。

その他にも多数の国で、車両やエンジンを大学や専門学校に教材として寄贈し、学生の知識や技術向上に貢献しています。



日産スキルズ・ファンデーションによるプログラム

**社会的なサポートを必要とする子供たちや若者への教育支援
(中国、南アフリカ、ブラジル)**

日産(中国)投資有限公司(NCIC)は、2010年から実施してきた「日産ケアリング・フォー・マイグラント・チルドレン」を発展させ、2013年から貧困地区の小中学生を支援するプログラム「ドリーム・クラスルーム」を実施しています。授業内容と実施地域を徐々に拡大し、現在では環境、モノづくり、デザイン、自動車工学の基礎など、多彩な授業を提供しています。

▶ website

▶ 「日産モノづくりキャラバン」「日産デザインわくわくスタジオ」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

2016年からは中国国内の他の事業会社も授業を開始しました。また、東風インフィニティ汽車有限公司(DFI)が自閉症の子供たちを支援するプログラムを実施しているほか、東風日産乗用車公司(DFL-PV)も独自の教育支援プログラムを展開するなど、活発に教育支援活動に取り組んでいます。

南アフリカ日産自動車会社(NSA)は、9年間にわたり巡回車両による眼科検診「モバイル・アイクリニック」を支援、2016年度は6,839名の児童を対象に検診を実施。154個の眼鏡を提供するとともに、治療が必要な子供たち6,174名に医療機関を紹介し、子供たちの学習環境を大きく改善することに貢献しました。

ブラジル日産自動車会社(NBA)は、ローカルスポンサーとして「第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)」「リオ2016パラリンピック」をサポートしました。この活動の一環として、リオデジャネイロの貧困地域を支援する取り組みを開始しました。

次世代の科学者やエンジニアを育成(米国)

北米日産会社(NNA)は米国における教育の取り組みとして、小学校から大学までの学生たちが自動車産業に不可欠な、科学・技術・工学・数学(STEM: Science、Technology、Engineering、Mathematics)の4分野に親しむことを奨励するさまざまなプログラムを支援しています。

2つの主力工場があるテネシー州では、全米で開催されるロボット競技大会「BEST * ロボティクス」のナッシュビル大会をサポートしています。同大会では、学生チームが建材などの簡単な材料でロボットを設計・製作し、3分間で与えられた課題に挑戦します。2016年度は16校から479名の学生が競技に参加。37名の日産従業員がボランティアとして出場チームを指導したり、競技審判を務めたりしました。リアルワールドで生じる技術的な問題を、プロジェクトベース型の大会で解決する体験は、学生の技術理解力を高め、キャリアの方向性を描くための絶好の機会となっています。

▶ BEST: Boosting Engineering Science and Technology (「工学・科学技術の振興のための」の意味)

また、NNAはテネシー州のリブスコム大学で行われた「リブスコム大学／日産BisonBotロボティクス・キャンプ2016」に協賛し運営をサポートしました。州内の5歳から16歳、148名の生徒がキャンプに集い、年齢に応じたロボット技術を学びました。



ロボット競技大会「BEST ロボティクス」ナッシュビル大会

公益財団法人日産財団による教育支援(日本)

公益財団法人日産財団は「未来に夢を持てる社会の実現をめざし、人材育成に貢献します」というビジョンのもと、人材育成事業を行っています。

財団事業の柱のひとつは理科教育助成で、子供たちの論理的あるいは科学的思考能力の向上を目指す小中学校や理科研究会を対象に、2年間の教育実践のための教材費などを補助します。助成期間に多大な成果を上げた学校には「理科教育賞」を授与し、助成校相互の研鑽と活性化を図っています。

また、小中学校の先生の科学への知的好奇心を喚起する1day体験プログラム「わくわくサイエンスナビ」を実施しています。最先端の科学施設を見学し、その感動を子供たちに伝える授業プログラムをつくるもので、年に3回、理化学研究所、東京大学生産技術研究所、早稲田大学先端生命医科学センターで実施します。

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

▶ website

日産財団の活動に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

財団事業のもうひとつの柱は、先の見えない環境で変革を主導できる強靱なリーダーを育成するための講座「逆風下の変革リーダーシップ養成講座(Global Resilient Leadership Program)」です。日産をはじめとするグローバル企業の変革事例を日米欧の一流ビジネススクール教授陣が読み解き、会長のカルロス・ゴーン、副会長の志賀俊之が自身の体験とリーダーの極意を語ります。

2017年3月末までに5回の講座を実施し、金融・流通・製造・情報など多業種の幹部候補約150名が参加し、各自の属する組織に学びを持ち帰りリーダーシップを発揮しています。

オックスフォード日産日本問題研究所による日欧相互理解促進(英国)

1981年、日産の寄付により英国オックスフォード大学内に設立された同研究所は、欧州における現代日本研究の主要拠点のひとつとして広く知られ、日欧の相互理解の促進に寄与しています。

人道支援

日産は、世界各地で発生した大規模自然災害で被災された方々への支援を行っています。また、国際NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとの協力関係により、北米やアジア各国で人道支援の取り組みを行っています。

ハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップ

北米日産会社(NNA)は、2005年に米国南部を襲ったハリケーン「カトリーナ」および「リタ」の災害支援をきっかけに、NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとの協働を始めました。同NGOは、「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」を理念に掲げ、家を建てたり改修したりすることで、

人々の希望を築く国際支援団体です。途上国における貧困や、それに起因する劣悪な住居問題を解決するため、世界約80カ国で住居建築や自立支援に取り組んでいます。

北米日産会社(NNA)は2006年以降、約1,300万ドルとクルマ93台を寄付したほか、従業員によるボランティア従事時間も8万6,000時間以上に上ります。

2012年からは、パートナーシップを北米以外にも拡大し、アジア各国で現地事業会社とともに住居建設や衛生環境改善、災害に強いコミュニティづくりなどの活動を行っています。2016年度はフィリピン、ミャンマー、インドネシアで活動を実施しました。



北米日産の従業員ボランティア

▶ website

ハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップに関する詳細はウェブサイトをご覧ください

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

東日本大震災への対応(日本)

福島県広野町で従業員によるボランティア活動を実施

日産は、2011年の震災発生直後からさまざまな支援を行う中で、従業員による復興支援活動を継続してきました。2016年度も前年度に続き福島県双葉郡広野町への支援活動を実施。福島県いわき市に拠点を置く、いわきおとんとSUN企業組合と協力し、計2回のボランティアツアーを実施。複数の事業所から45名の従業員が参加しました。地域住民の方々と交流しながら、防災緑地の整備作業や手づくりソーラーパネルの製作、オーガニックコットンの収穫などの活動を行いました。



広野町で実施した復興ボランティア活動

被災した子供たちに笑顔を

「日産プレジデント基金」は、当時CEOであったカルロス・ゴーンが発起人となって2011年に発足。東日本大震災で被災した子供たちの笑顔を取り戻すためのプログラムを実施しています。岩手県、宮城県、福島県の子供たちの日常的な遊び場である児童館を、多様な専門性を持った県内外のNPOが訪問し、さまざまなプログラムを実施したほか、長期休暇を活用し、県外での体験学習や遊びの場を提供しました。

その他の自然災害への対応

熊本地震の被災地を支援(日本)

2016年4月14日以降に熊本県で相次いで発生した地震により被害を受けた方々に対して、日産自動車株式会社(NML)および日産自動車九州株式会社(NMK)は、初動支援として水や食料などの物資を提供。さらに義援金の寄付に加えて従業員募金とのマッチング寄付を行いました。また、NMLはEVの「日産リーフ」と「e-NV200」など計約100台を被災自治体や援助団体に無償貸与し、復旧・復興活動を支援しました。NMKからは従業員が被災地支援活動に参加し、支援物資の配布や避難所での活動、がれきの撤去等を行いました。活動は計15回行われ、延べ160名が参加しました。



熊本地震被災地で支援を行うNMKの従業員

森林火災の被災地支援として車両を寄贈(チリ)

チリ日産自動車会社(NCHL)は、2017年2月に発生した大規模森林火災の救援活動をサポートするため、NGOに「NV350」を2台寄贈しました。

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

事業を営む地域への貢献

日産は、事業を行う地域の一員として、地域社会に積極的にかかわり、地域の方々に愛される「良き企業市民」でありたいと願っています。地域のイベントに協力するほか、清掃活動など事業所周辺の環境を向上させる活動、自社施設の開放など、さまざまな形で地域貢献活動を行っています。また、従業員もボランティアとして積極的に地域の活動に参加しています。

地域と協働で障がい者スポーツ大会を開催(日本)

2016年12月、「第17回日産カップ追浜チャンピオンシップ 2016(全国車椅子マラソンin横須賀)」¹を地域関係諸団体との協働運営で開催しました。本大会は、2000年に始まった車椅子陸上競技の総合大会で、障がい者スポーツの普及と競技者の技術向上のほか、地域の活性化と「やさしい街づくり」支援を目的としています。追浜工場内のテストコース「GRANDRIVE」と京浜急行追浜駅間の公道を使用したロードレースでは、従業員ボランティアと地域のボランティア830名がコース整理を行うなど、大会運営をサポートしました。また、神奈川県厚木市の日産テクニカルセンター(NTC)と日産先進技術開発センター(NATC)では、清掃活動や地域のイベントへの協力など、さまざまな地域貢献活動に取り組んでいます。その一環として、2012年から視覚障がい者と健常者が一緒に参加できるマラソン大会「日産ふれあいロードレース」²をスタート。「安全広々コースで思い切り走ろう」をテーマに、NTCの構内を開放して実施しています。2017年3月の第6回大会には、618名のランナーが参加しました。

財団による支援(米国、オーストラリア)

米国では、社会における「多様性」を促進するための教育活動に対して資金提供を行う「日産ファンデーション」を通じて多くのコミュニティを支援しています。1992年の設立以来、日産ファンデーションは米国全土の100以上のNPOに対して930万ドル以上の寄付を行ってきました。2016年度は、全米の27の団体・機関に対して70万ドルの寄付を行いました。

日産オーストラリア(NMA)は、2016年4月に社会貢献活動を目的とした日産オーストラリア財団を設立しました。オーストラリア国内の中小規模の団体に資金提供を行い、活動の拡大を後押しするほか、STEM教育や交通安全教育の推進に取り組んでいきます。また、従業員によるボランティア活動や寄付を推進するための支援制度も導入する予定です。

▶ website

1 「日産カップ追浜チャンピオンシップ」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

▶ website

2 「日産ふれあいロードレース」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください